

# 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 12月分

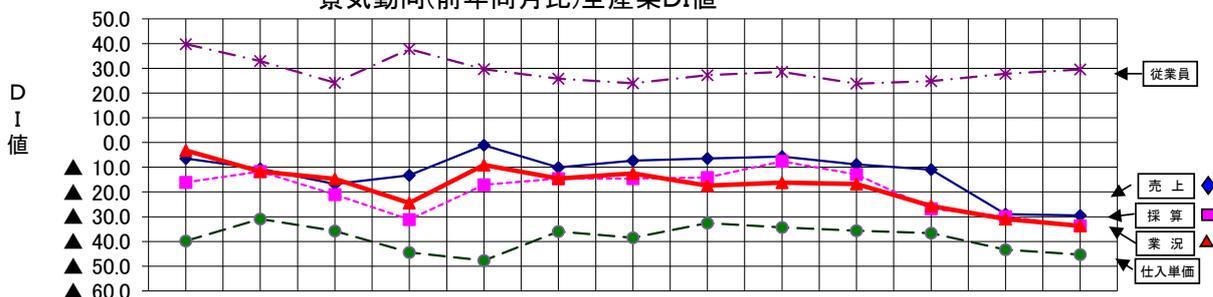
## 【12月の概要】売上・採算・業況とも下降傾向が続き、先行きは依然として慎重な見通し

11月の業況判断に比べると、売上D I・採算D I・業況D I・仕入単価D Iともマイナス幅が増加し、従業員D Iはプラス幅が増加した。人手不足が続く中、売上や客単価が減少するなど、消費増税の影響も出てきている。

先行きの見通しについては、11月に比べ、売上D I・採算D I・業況D Iはマイナス幅が増加し、仕入単価D Iはマイナス幅が減少し、従業員D Iはプラス幅が増加した。

仕入の高止まり、売上の減少、キャッシュレス決済の増加により、資金繰りに影響を与える業種もあり、引き続き慎重な見通しが続いている。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



## 【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2018年12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	2019年12月
売上	▲ 6.5	▲ 10.6	▲ 16.8	▲ 13.3	▲ 1.1	▲ 10.1	▲ 7.3	▲ 6.5	▲ 5.7	▲ 8.9	▲ 10.9	▲ 28.9	▲ 29.5
採算	▲ 16.1	▲ 11.7	▲ 21.1	▲ 31.1	▲ 17.1	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 12.9	▲ 26.7	▲ 29.9	▲ 33.7
業況	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 14.7	▲ 24.4	▲ 9.1	▲ 14.6	▲ 12.5	▲ 17.4	▲ 16.2	▲ 16.8	▲ 25.7	▲ 30.9	▲ 33.7
仕入単価	▲ 39.8	▲ 30.9	▲ 35.8	▲ 44.4	▲ 47.7	▲ 36.0	▲ 38.5	▲ 32.6	▲ 34.3	▲ 35.6	▲ 36.6	▲ 43.3	▲ 45.3
従業員	39.8	33.0	24.2	37.8	29.6	25.8	24.0	27.2	28.6	23.8	24.8	27.8	29.5

売上D Iは0.6ポイント、採算D Iは3.8ポイント、業況D Iは2.8ポイント、仕入単価D Iは2.0ポイントのマイナス、従業員D Iは1.7ポイントプラス幅が広がった。

## 全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
10月	▲ 14.9	▲ 24.8	▲ 23.8	▲ 33.7	23.8
11月	▲ 17.5	▲ 24.7	▲ 22.7	▲ 34.0	23.7
12月	▲ 19.0	▲ 25.3	▲ 24.2	▲ 30.5	28.4

先行き見通しでは、売上D Iが1.5ポイントのマイナス、採算D Iは0.6ポイント、業況D Iは1.5ポイントのマイナス、仕入単価D Iは3.5ポイントマイナス幅が減少し、従業員D Iは4.7ポイントプラス幅が広がった。

## 【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	今後の人材確保が見通せず、売上増強の戦略策定ができない状況。
	土木	工程が重なる受注があるが、余剰の人員や機材を持つことは慎重にならざるを得ない。
製造業	工作機械	仕入が高止まりしている中、来月から更に5%の値上げを要請された。
	食品	来年のオリンピックでの、首都圏の売上増に期待している。
卸売業	建築資材	公共事業向け資材を扱っているため、「休工」(冬季)で販売は減少する。
	食品	仕入単価が上がっているが、売価に転嫁できていない。
小売業	雑貨	9月までは現金販売が9割を占めていたが、消費増税後、カード売上が3割まで伸びた。
サービス業	飲食業	キャッシュレス比率の高まりで、一時的にキャッシュフローが減少している。
	美容	消費増税後、顧客の来店周期が延び、売上、客単価とも減少した。
	タクシー	1年以上新採用がない一方、高齢者の離職が始まっている。